

街を皆で“niji-iro”に  
その種を届けるニュースレター

# にじのたね Vol. 5

多様な性のあり方を知る【ともに育つ・ともに生きる①】

## お互いが、ありのままに過ぐす。 同性カップルの暮らし。

同性どうしが夫婦のように人生を共にすることについて考えたことはありますか？ 私たちの社会にはそんなカップルも身近に暮らしていますが、同性の結婚が想定されていない日本では、いざという時に家族として助け合えない状況になる場面もあります。

そんな中で暮らす、あるカップルをたずねてみました。お互いを受け入れながらゆっくりと暮らしを育み、しなやかに生きる姿がそこにありました。

### マンションでの2人暮らし。

現在のマンションで18年間、暮らしを共にしているみのるさんとマコトさん。みのるさんはお仕事を引退して10年以上、現役世代のマコトさんは講演活動などをライフワークとされています。



年の差があるおふたり。26年前、マコトさんがゲイコミュニティに繋がった翌年に出会いました



暮らしの様子を丁寧に説明して下さるのはマコトさん。

「このマンションは私達も含め、高齢化が進んでいて、管理組合で老人会が始まったり、芋煮会をするようになってきています。参加したことはまだありません。」

「だけど、孤立しているようには見られていないと思うよ。特別なことは何もなく暮らしてる。」みのるさんは、マイペースに引退生活を送っているようです。

「お隣が80代のおひとり暮らしで、震災の時はお水を運ぶのをお手伝いしました。その時にふたりで住んでいるんです、ということはお話しました。マンションの管理人さんは彼を“相棒さん”と呼んでいます。日常の中で私達の関係を伝える場面は案外ありません。」

今のところ大きな暮らしづらはなく、穏やかに過ごされているようです。

### お互いの暮らしをそっと見つめる。

震災時、マコトさんはうつが悪化して5年以上が経過していました。

「震災も悪いことばかりじゃないねと思った。この人が落ち込んでいる時に、世の中も皆落ち込んで。運がいいと思う」とみのるさん。転職、講演、イベント…葛藤しながら様々な仕事や活動をし、浮き沈みを経験するマコトさんを“傍観している”といいます。

中面へ続く

「私があーだこーだ喋っていると、彼は全く別の話をしたりします。重いことも軽く流してくれることが楽しくてくれます。完全クローゼット※1だった自分がゲイとして行動し始めたばかりの頃に出会い、以来ずっと紆余曲折を見守ってくれています。」

花を育てることがみのるさんの楽しみ。ベランダに常時200ほどの植物が並びます。撮影するのはマコトさん。携帯にアルバムを作ったりSNSで友人に紹介したりします。お互い、自分のことは自分で。食事は暮らし始めて2年目に大きな冷蔵庫を買って以来、自炊中心になりました。

「凝った料理は私が作る。ちゃっちゃと食べる時は彼が作る。私が忙しい時は作ってくれます。」

「自分が食べなきゃいけないから、しゃあないよね。」



(左)みのるさんが手掛ける多彩な植物たち。次から次へと花が咲きます (右)マコトさんが作ったおせち。手のかかる料理も得意です

## 家族に丁寧に伝え、成熟した暮らしを営む。

「彼の家族にはカミングアウト※2していませんが、私達の暮らしを当たり前と思ってれています。説明しづらい関係なので、パートナーシップ制度ができれば分かりやすいかなとは思いますが、今は日常を知ってもらうことを丁寧にしたいと考えています。」

マコトさんは暮らしはじめて間もなくお姉さんにはご自身がゲイであることとパートナーがいることを伝え、ご両親とお兄さんには10年後にカミングアウトしました。みのるさんのご家族とは、お姉さんと3人でお墓参りや旅行に行ったり、甥っ子が子どもを連れて泊まりに来たりします。家は誰が来ても違和感のない空間になっていると言います。

「皆居やすいんじゃない? たぶん同士か相棒かくらいにしか思っていない。自分は7人きょうだいの末っ子で“長幼の序”は大切にしたよ。口答えも逆らいもしないで、でもなるべくダメなやつとは言わせないようにしてきた。理解されているわけでも無いけど自由。隠し子?とは聞かれたことがある」とみのるさん。これまでの生き方もご家族との関係作りに役立っているようです。

世代や個性の違いを認め合い、ふたりの暮らしや家族との関係をゆっくり育んできたみのるさんとマコトさんです。

## 終末期に向けてどうしていくか。

「パートナーシップ制度がもしできたら乗っかきたいなどは思っていますが、同性婚は制度ができてみないと分からな

いですね。養子縁組※3もあるよねと話したこともあります。彼は具体的に考えるのは抵抗があるようです。」

「養子縁組をしようときょうだい、親など家族全体を巻き込む。

良いとは思うんだけどね、この人より先に死ぬだろうと思うとためらいがある。」

どうしたら良いだろうねと話題には上がるけど、じゃあ進めましょうかとはならない、と言います。仕事を続けるマコトさんにとって、養子縁組は名字が同じになるので選択したくないという意思もあるようです。

アピールするようなことでもない、とみのるさん。しかし、育んできた暮らしや住まいをマコトさんに残したい思いはもちろんある。自然な形で残す方法があるのならそれが一番。おふたり共通の思いです。

両親、きょうだい、甥や姪など、家族との関係に応じて、日常生活や終末期の暮らしを考える。パートナーとの生活の中で向き合うテーマについて、おふたりのお話を通して考えられることはたくさんあります。

仙台にもにじいろの風が吹き始めています。おふたりの思いが当たり前を実現される世の中になるにはどうしたら良いか。次の世代のためにも、それを皆で考えていくことが必要ですね。

※1 クローゼット=秘密にすること。自分のセクシュアリティ(性のあり方)をオープンにしない時によく用いられる。

※2 カミングアウト=セクシュアリティを表明すること。公にしていなかった自らの出身地や病状を明らかにするときにも使われるようになってきている。

※3 養子縁組=血縁関係に無い子を必要な手続きを踏んで、親子関係に設定すること。成人同士の縁組も可能で、その時には年上が親になりその姓を名乗る。





# nijiiro learning ~多様な性についてまなぶ~

## ●LGBT(エルジービーティー)

性のあり方が典型的な男女とは異なる人たち、性的マイノリティを差すことば。



レズビアン(女性同性愛者)



ゲイ(男性同性愛者)



バイセクシャル(両性愛者)



トランスジェンダー  
(生まれながらに決められた性と自認する性が違う人)



「LGBT」はそれぞれの頭文字をとって表しています。2015年東京都渋谷区の同性パートナーシップ認定条例制定などをきっかけに広く知られるようになりました。

## ●SOGI(ソジ)

セクシュアリティには、性自認(性同一性)、身体的性(遺伝子や内性器、外性器等による性)、性的指向(恋愛や性的な衝動が向く性別)、性表現、生殖、性的成長など、様々な要素があります。

その中でも性的指向と性自認は多様な性のあり方を示すのに重要で、それぞれ sexual orientation, gender identity の頭文字をとり「SOGI」と表しています。

多種多様な人々がいて、とても豊かなもの。それが「多様な性」ですね。



## ●レインボー

多様な性を表現する時に多く使われている「にじいろ」。1969年6月に起こった性的マイノリティの抵抗運動「ストーンウォールの蜂起」の1年後にパレードが行われ、70年代、ハーヴェイ・ミルクの時代に「レインボーフラッグ」が作られたことが起源です。何キロも続く巨大なフラッグを持ったパレードが象徴的で、長い年月語り継がれ、様々な国で様々な形で引き継がれてきました。

日本最初のレズビアン&ゲイパレードは1994年3月。紆余曲折を経て、2012年に「東京レインボープライド」が開催されて以来、東京でのパレードは毎年行われています。

「にじいろ協働事業」では、多様な性を通して誰もがありのままを表現できる「にじいろのまち」を目指しています。



## ●同性婚、パートナーシップ制度

婚姻関係にないカップルは、周囲の理解不足や制度上の制約などから、日常生活において困難に直面することがあります。

行政窓口での理解に濃淡があり安心して相談できるか分からない、病気の時にパートナーを代理人にできない医療機関がある、子どもがいても親権は実子にしか持てない…などカップル同士で支え合うには不安が付きまといまふ。

同性婚ができない日本ですが、全国の自治体にパートナーシップ制度が広がり始めています。多くのカップルが可視化していく中で、隣人の生活として、自分の将来として、多様な暮らしがイメージできるようになるとよいのではと思います。

みんなの声で  
にじいろの日本に。



# nijiro topics

## ■コミュニティスペース『にじのひろば』

にじいろ協働事業では、多様な性のあり方の情報に触れ、参加者どうして話し合えるコミュニティスペース「にじのひろば」を開設します。多様な性のこと一緒に考えてみませんか？

日 時：毎月第4日曜日 13:30～17:30  
 7月28日、8月25日、9月22日、10月27日、12月22日、  
 1月26日、2月23日、3月22日  
 ※11月はお休みします

会 場：エル・パーク仙台 5階 創作アトリエ

参加費：無料 どなたでもご参加ください  
 (開催時間内出入り自由)



### ●安心できる場です

- ・呼んで欲しい名前を決めておきましょう。本名でなくて構いません。
- ・自分のことは話しても話さなくても大丈夫です。
- ・他の人のプライバシーを守りましょう。自分も守られます。

### ●自分のペースで

- ・質問されても言いたくないことは言わなくて大丈夫です。
- ・相談したいことがあればスタッフに声をかけて下さい。
- ・互いの発言を受け止め、尊重しあう時間にしましょう。

## ■よりそいホットライン

すべての人を「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して、24時間通話無料で電話相談に取り組んでいます。電話ガイダンスに従って、相談内容を選べます。

セクシャルマイノリティ  
 専門回線もあります。  
 (4番を選択して下さい)  
 Tel/0120-279-226



## ■東北HIVコミュニケーションズ

HIV感染症(エイズ)によって、自らの生命や生き方に影響を受けた人々が共に生きる社会をつくることを目的とし、1993年12月に設立。疾病やセクシュアリティなどに刻まれたスティグマ(汚名、恥辱などの意)を克服し、自らの力を回復して、自己決定して人生を歩むことができるよう、様々な集いの開催や相談活動、人材育成を行っています。



エイズ電話相談/022-766-8699  
 (第2・4土曜、18～21時)

## ■みやぎ男女共同参画相談室/ LGBT(性的マイノリティ)相談

男女共同参画相談員によるLGBT相談を実施しています。要望により予約面談も受け付けています。

電話相談/022-211-2570  
 (毎月第2・4火曜、12～16時。祝・休日を除く)

編集後記/インタビューは大変貴重なお時間を頂きました。どんなカップルも家族も、ありのままに暮らせることの大切さを改めて感じました。(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください  
 にじいろキャンパス SENDAI/にじのたね係

## 多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 ～にじいろ協働事業～

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじいろスピーカー派遣」「にじのたね」「にじのひろば」と「せんだいレインボーDay」の4つの事業を展開しています。東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

- ①にじいろスピーカー派遣  
多様な性のあり方についての講座などお手伝いします。
- ②ニュースレター・にじのたね  
仙台市の施設などで配布し、市民に広く啓発します。
- ③コミュニティスペース・にじのひろば  
仙台市男女共同参画推進センターで来場者とコミュニケーションしながら、情報を紹介したり、必要に応じてサポートを提供します。
- ④啓発イベント・せんだいレインボー Day  
多様な性のあり方に触れられるイベントです。

にじいろキャンパスSENDAI  
 (東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2  
 みやぎのいのちと人権リソースセンター内  
 東北HIVコミュニケーションズ  
 TEL/FAX 022-298-8532  
 [E-MAIL] office@sendai-niji-ro.org  
 [HP] http://sendai-niji-ro.org



発行 にじいろキャンパスSENDAI  
 発行日 2019年7月10日  
 デザイン・編集 トトライティング  
 発行部数 5000部  
 配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗  
 市内外の男女共同参画センター